

沖繩担当大使通信 第4回 沖繩と世界をつなぐ

2026年（令和8年）3月31日



TOFU プログラム参加学生の米国国務省訪問
(2026年3月20日、於：ワシントンDC)

早くも年度末となり、沖繩でも春の陽気が感じられる季節となりましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は着任から4か月が過ぎ、日々の仕事も軌道に乗ってきました。

当地の方々にお会いする中で、そもそも外務省は国内の沖繩になぜ担当大使と事務所を置いているのか、との質問を受けることも多く、仕事の内容をきちんと発信することの大切さを感じています。米軍の沖繩駐留に関係する地元の皆様の負担軽減に尽力することは、1997年の事務所開設時からの主要な役割です。さらに、[前回の沖繩担当大使通信](#)でご紹介したとおり、沖繩での日米交流の推進を通じた相互理解の増進にも取り組んでいます。

それに加え、沖繩の皆様が最新の国際情勢への理解や世界各地との交流・協力を深め、地域と世界の平和と繁栄に向けて共創・発展していただけるよう、外務省のリソースとネットワークを活用して様々な取組を行っています。今回の沖繩担当大使通信では、この分野での外務省沖繩事務所の最近の活動をご紹介します。沖繩と世界をつなぐために外務省として今後さらに何ができるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



TOFU プログラム参加学生の米国議会訪問
(2026年3月19日、於：ワシントンDC)

●アメリカで沖縄の未来を考える（TOFU）プログラム

3月18日～25日、外務省主催の「アメリカで沖縄の未来を考える（TOFU: Think of Okinawa's Future in the United States）プログラム」が行われました。沖縄の高校生及び大学生等30名が東京とワシントンDC、ニューヨークを訪問し、日米双方の幅広い関係者への表敬や意見交換、視察を行いました。2017年度に始まり今回が8回目で、歴代の参加者はのべ200名となりました。

今回、東京では木原稔官房長官、堀井巖外務副大臣、宮崎政久防衛副大臣他を表敬しました。ワシントンDCでは国務省、米国議会、日本大使館などを訪問し、現地の学生とも交流しました。幸い高市総理の米国訪問と同時期で、アーリントン墓地では式典において献花をされる総理の様子を最前列で見学できたことは貴重な経験となりました。また、ニューヨークでは国連日本政府代表部、国連本部などを訪問し、国連日本人職員による講義を受けたほか、日本総領事館主催のレセプションに参加しました。

近日中に沖縄で開催される事後報告会で、次の時代を担う参加者の皆さんから、感想や抱負を伺うのを楽しみにしています。



外務省高校講座（2026年2月16日、於：県立宜野湾高校）

●沖縄の学生・生徒向けの講演

外務省沖縄事務所では、県内の中学校、高校や大学からの要請に応じて、国際情勢や日本外交、外務省のキャリアについての講演や講義を行っています。

当事務所の仲村きらら主査は、沖縄県名護市出身です。2月16日、県立宜野湾高校で、1・2年生の約400人に対して外務省でのキャリアと外交官の仕事について講演を行いました。仲村主査は、開邦高校卒業後、県外の大学を経て、2016年に外務省に入省しました。パキスタンの在カラチ日本総領事館や在米日本大使館での勤務後、2024年に当事務所に配属されました。高校生に向けて、「沖縄と本土、米国をつなぐ架け橋になりたい」との思いを語り、英語学習のアドバイスなどを行いました。これまでも県立北中城高校、那覇国際高校、具志川高校、古堅中学校、沖縄キリスト教学院大学などで講義を行っています。

篠原亮子副所長も、昨年8月に名桜大学、12月に沖縄国際大学、本年1月に琉球大学に招かれ、最新の国際情勢と日本外交について講義しました。学生の皆さんから様々な質問が出され、議論を深めることができたと聞いています。

沖縄事務所は、所員による講演・講義を通じて、県内の皆様が最新の国際情勢や日本外交、外務省のキャリアへの理解を深める機会を、今後も提供していきます。ご関心・ご要望がありましたらお気軽に当事務所にご連絡ください。



外務省インターンシップ事後報告会
(2026年2月10日、於：外務省沖縄事務所)

●外務省インターンシップ

外務省は毎年夏に、日本人の大学生に対してインターンシップの機会を提供しています。これは、外務省の活動や日本外交への理解を深め、外交や国際関係業務に携わる人材の裾野を拡大することを目的とするものです。

昨年夏に沖縄県内から外務省インターンシップに[参加](#)した学生4名が、2月10日に外務省沖縄事務所で[事後報告会](#)を行いました。沖縄から参加する大学生には、2017年度から毎年、沖縄銀行がインターン生の渡航費・宿泊費を支援して下さっています。今回は、同行を代表して、嘉数貴子総合企画部長及び同部総務グループの川田孝子様に御臨席いただきました。

各学生からは、戦略的対外発信拠点室、国内広報室、2025年日本国際博覧会（万博）室、第9回アフリカ開発会議（TICAD9）事務局での経験と教訓について報告がありました。今回の報告会に際し、私から沖縄銀行の山城正保取締役頭取に宛てて感謝状を発出し、嘉数総合企画部長に代理で受領いただきました。

沖縄県内の学生のみなさんに、外務省インターンシップの機会を活用していただけるよう、当事務所としても引き続き支援していきたいと思っております。



沖縄市での日米合同清掃活動後の賞状授与式
(2026年3月8日、於：沖縄市センター自治会ホール)

●沖縄市での日米合同清掃活動

今月は、沖縄での日米交流についても新たな進展がありました。3月8日、沖縄市のゲート通りで、[センター自治会、地元住民、米軍関係者による清掃活動](#)が実施され、引き続き松田健治・センター自治会長と花城大輔・沖縄市長から米軍ボランティアに、外務省からセンター自治会長に謝意が表明されました。

この清掃活動は昨年6月から毎週行われており、その中心的役割を担ってきたのが、米空軍第18航空団所属のエドワード・シムズ二等軍曹とニコラス・カルドナー一等空兵です。清掃後の式典で、花城大輔沖縄市長及び松田健治センター自治会会長からお二人に対し、ボランティア活動証明書が授与されました。

また、地域と米軍をつなぎながら合同パトロールや清掃活動を通じて安心・安全なまちづくりに尽力してこられた松田センター自治会会長に対し、私と熊谷直樹外務省北米局長との連名で感謝状を贈呈しました。今後も地域と米軍によるこのような草の根の交流と協力が進み、多くの方々に知ってもらえることで、相互理解や信頼関係の深化につながっていくことを期待しています。



第43回・外国人による日本語弁論大会
(2026年2月15日、於：アイム・ユニバースてだこホール)

●外国人による日本語弁論大会

沖縄と世界のつながりは、世界各地から沖縄に来る外国人を通じても強化できます。2月15日、浦添市のアイム・ユニバースてだこホールで、沖縄県国際交流・人材育成財団主催・沖縄県及び沖縄テレビ放送共催の「[外国人による日本語弁論大会](#)」が開催されました。外務省はこの大会を[後援](#)しており、当事務所から篠原亮子副所長が審査員の一人として出席しました。

ネパール、スペイン、中国、スリランカ、韓国、タイ、ペルー、台湾、オランダからの12名の弁士が、それぞれ7分間のスピーチを行いました。いずれも素晴らしい日本語で、日本・沖縄で前向きに暮らしている参加者自身の経験を踏まえ、お互いの文化や見方の違いにも気づかせてくれる、示唆に富んだ内容だったとのことです。

外務省では、外国人材の受入れ及び我が国で生活する外国人との秩序ある共生社会の実現に向け、関係省庁・機関・団体との緊密な連携の下で[取組](#)を進めています。



沖縄安全保障シンポジウム（2026年3月7日、於：那覇市）

●沖縄安全保障シンポジウム

沖縄担当大使も、以前から沖縄で開催される各種のフォーラムやシンポジウムに登壇しています。3月7日、笹川平和財団／平和・安全保障研究所共催の[沖縄平安全保障シンポジウム](#)「厳しさを増す国際情勢と日本の安全保障戦略」が当地で開催されました。山崎幸二元統合幕僚長の基調講演に続き、私もパネルディスカッションのパネリストの一人として今回初めて登壇し、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」について、前任地のASEAN 日本政府代表部での経験も踏まえてのプレゼンと議論をさせていただきました。

今、日本を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑なものとなっています。このような厳しい国際情勢の中で、日本への期待も高まっています。外務省沖縄事務所としても、国際情勢の変化や日本への期待に対する沖縄での理解を深めながら、沖縄の強みを日本や世界で生かすべく、以上のような取組を今後も進めていく考えです。引き続きご理解とご協力をいただければ幸いです。

沖縄担当大使
紀谷昌彦